

# 福島県の海況における近年の特徴

福島県水産海洋研究センター 海洋漁業部

部門名 水産業－海洋生産－水温・塩分

担当者 有賀陸・池川正人

## I 新技術の解説

### 1 要旨

福島県では、海洋観測（以下、観測）を観測定線・定点にて調査船により毎月実施している（図1）。観測結果は当センターが発行する海況速報や、国立研究開発法人水産研究・教育機構がまとめる海況予報等に用いられている。

近年、本県海域において表面水温の長期的な上昇が示唆されるなど、海況が変化していることから、沿岸定線のうち 50 海里以内の定点の水深 100m の観測結果を用い、2022 年～2024 年における本県の海況の経過について整理した結果、2022 年～2024 年は期間全体を通し、水温の平年差が高め基調で推移し、黒潮の影響を強く受けたことがわかった。

- 2022 年 10 月～2023 年 10 月の水温は、平年差が $+3.04\sim+5.99^{\circ}\text{C}$ であり、高め基調で推移した。2022 年 10 月頃より黒潮続流が接岸し暖水波及したことによると考えられた（図2）。
- 2023 年 12 月～2024 年 8 月は、平年差は $+2.32\sim+7.00^{\circ}\text{C}$ であり、高め基調で推移した。また、2024 年 7 月の平年差は $+7.00^{\circ}\text{C}$ であり、過去 3 番目に高い記録であった。
- 2023 年 11 月及び 2024 年 9 月は平年並みとなった。
- 2022 年 10 月～2024 年 10 月における各定線の平年差の平均値は、塩屋埼定線では $+4.29^{\circ}\text{C}$ 、富岡定線では $+4.77^{\circ}\text{C}$ 、鵜ノ尾埼定線では $+3.52^{\circ}\text{C}$ であり、「高め」～「極めて高め」に相当し、全ての定線で高め基調であった。
- 2022 年 10 月～2024 年 10 月まで、距岸 50 海里以内への黒潮続流が 11 回観測された（水深 200m で  $14^{\circ}\text{C}$  以上を黒潮続流の指標とし、観測結果より算出）。これは観測を開始した以降で最多の頻度であり、黒潮続流の影響が強いことが窺えた（表1）。

### 2 期待される効果

- 効率的な操業を支援するための資料となる。

### 3 適用範囲

- 漁業関係者、研究機関

### 4 普及上の留意点

- 操業支援のため、今後も継続して海洋観測を実施し、海況を把握する必要がある。

## II 具体的データ等

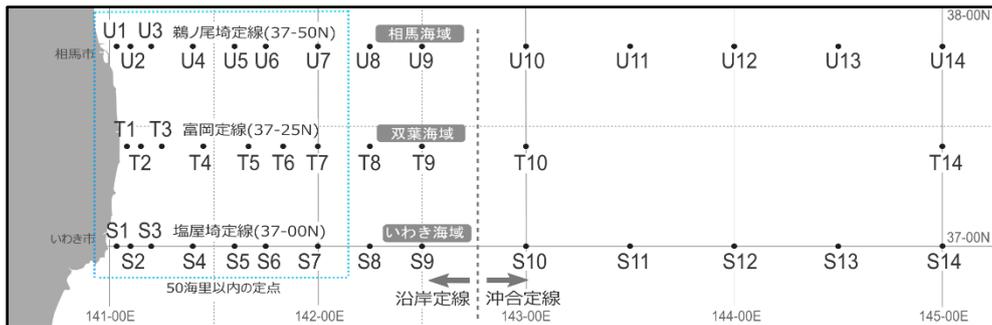


図1 海洋観測地点

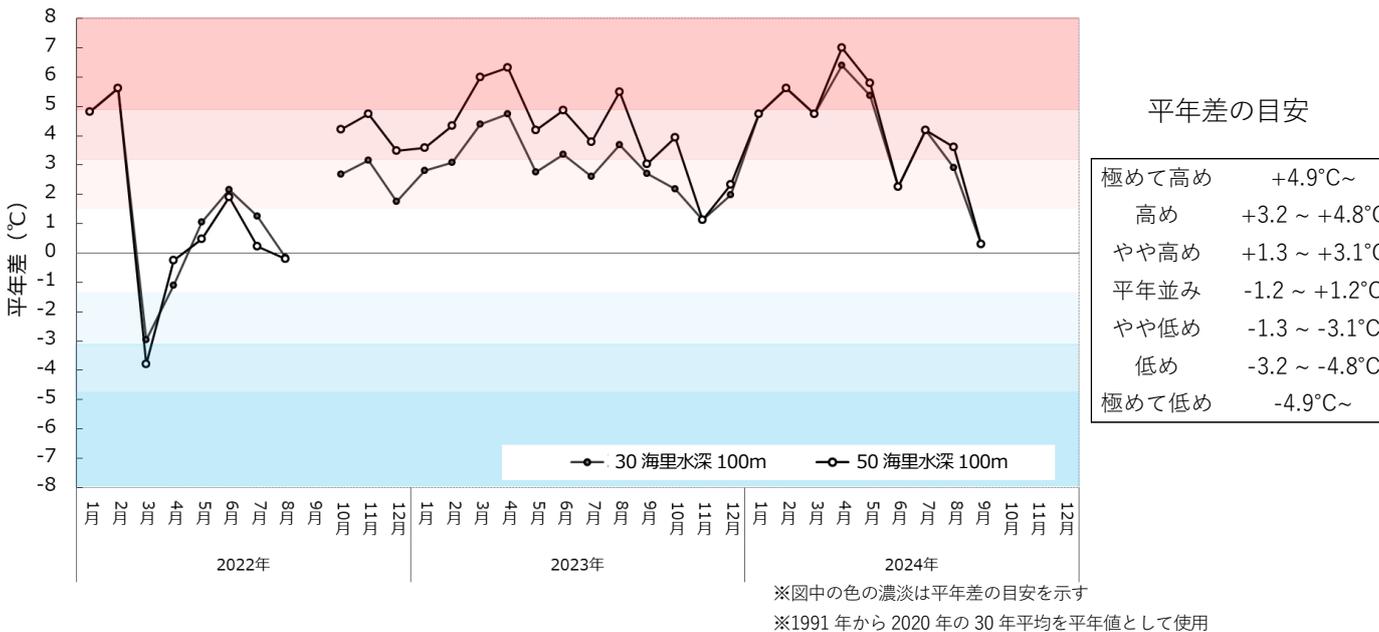


図2 距岸30海里と50海里の水深100mにおける海水温の年平均差

表1 福島県海域における黒潮続流の距岸距離（海里）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2022年	-	-	-	-	-	-	-	-	欠測	40	30	50
2023年	50	50	40	50	60	50	50	40	-	50	-	70
2024年	-	-	-	30	-	-	-	-	-	-	-	-

※水深200mにおいて14°C以上を指標とし、海洋観測結果より黒潮続流の距岸距離を算出した  
 ※数字は距岸距離（海里）を示し、「-」は黒潮続流が観測されなかったことを示す。  
 ※色塗箇所は30海里以内の観測時を示す（通常50海里）

## III その他

### 1 執筆者

有賀陸

### 2 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和3~7年度
- (2) 研究課題名 海況予測技術に関する研究

### 3 主な参考文献・資料

- (1) 有賀陸, 福島県海域の長期水温変動解析, 令和5年参考となる成果
- (2) 国立研究開発法人水産研究・教育機構: 改良版我が国周辺の海況予測システム